

(専門試験 水産 No.1)

我が国の養殖魚の種苗生産に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. マダイ養殖では人工種苗の利用が一般的となっているが、ヒラメ養殖では種苗の全てをいまだに天然種苗に依存している。
2. 一般に、ホルモン処理による人為催熟で得られた卵は、自然産卵で得られた卵よりも受精率が高い。
3. 人工授精の方法には乾導法と湿導法があり、一般に、乾導法の方が湿導法よりも受精率が高い。
4. 近年、冷凍保存された卵を用いて人工授精を行う技術が普及しつつある。
5. XXの性染色体型をもつ偽雄を通常の雌と交配することによって、全雄種苗を得ることができる。

正答番号 1

(専門試験 水産 No. 2)

水産加工品に用いられる食品添加物に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 我が国の食品添加物の指定制度では、天然物が指定添加物として扱われることはない。
2. 指定添加物は、それぞれの使用目的に対して効果を発揮することが科学的に確認されている。
3. D-ソルビトールは、微生物の増殖を防ぐために、保存料として魚肉練り製品に添加される。
4. 食用赤色2号や食用青色1号などのタール色素は、乾燥のりの色調を改善するために使用されている。
5. L-アスコルビン酸は、ビタミンCとも呼ばれ、天然にも多くの量が存在することから、酸化防止剤として使用しても表示する義務はない。

正答番号 2